

考古アラカルト43

特別展示 紫式部の生きた京都

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

宮廷の世界を舞台にした最高の文学作品である紫式部の源氏物語が世に知られて今年(2008年)で、千年紀を迎えました。

これを機に当研究所・資料館では、特別展示「紫式部の生きた京都」を開催することになりました。式部が実際に見て、感じた世界は、遺跡と遺物でも十分再現でき、また、その時代背景を探ることもつながると考えました。

ここでは、天徳四年(960)内裏焼亡から万寿四年(1027)の道長死

去までの摂関期を中心に、式部が生き、藤原氏が権勢を謳歌した時代を扱っています。

写真パネルでは、天徳四年(960)の内裏焼亡による焼けた壁土、河川の氾濫の土砂で埋まる西堀川、天皇の控えの間である豊楽院清暑堂跡、建物と庭園が検出された斎宮跡、里内裏である堀河院の優雅な庭園跡、冷泉院の庭園の景石、高陽院の洲浜と出土した研ぎ出し蒔絵の硯、木杵組の井戸、路面に残された轡跡など、数々の発掘成

果を紹介しております。

また、遺物展示では、当時の平安貴族が用いた硯や石帯、木製品、土器など、雅やかな出土遺物を展示しております。とくに和歌が記された墨書土器は、源氏物語の背景を知る上で貴重な資料です。

これらの展示品を通じて、式部の文学を育んだ豊かな京都の歴史と文化に思いをはせ、更なる京都の魅力を生み出す機会にしていただければ幸いです。

(原山 充志)



いつのまにわすれ
にけむあふみちらほゆめの
かほは
けり



1. 和歌を書いた土器
(平安宮左兵衛府跡)
2. 承明門の北雨落溝と地鎮遺構
(平安宮内裏跡)
3. 門の中心線に沿う地鎮の跡(同上)
4. 天徳4年の内裏焼亡後の処理遺構
(平安宮内裏跡)
5. 火災にあった壁土
(同上)
6. 大極殿院北面回廊の基壇北縁
(平安宮朝堂院跡)
7. 朝堂院・皇極堂の北縁基壇(同上)
8. 平泉地に鑑波文の蒔絵硯
(平安宮左京二条二坊・高陽院跡)
9. 北岸の洲浜(同上)
10. 南岸の洲浜(同上)
11. 湧き水の痕跡(同上)
12. 和歌砂岩の礎石(同上)
13. 北縁の内溝
(平安宮左京二条二坊・冷泉院跡)
14. 園池の景石(同上)





15. 「朱雀院」銘題簀 (平安京左京四条一坊一町)
 16. 題簀の出土状況 (同上)
 17. 題簀の出土した池の洲浜 (同上)
 18. 牛車の轆跡 (平安京右京四条二坊・西大宮大路)
19. 轆を踏んだ牛の跡 (同上)
 20. 方形縦板木枠組の井戸 (平安京左京四条三坊五町)
 21. 井戸側が倒れ込んだ井戸 (平安京右京二条二坊三町)
 22. 園池と景石
- (平安京左京三条二坊・堀河院跡)
 23. 泉殿の柱跡と園池 (平安京右京三条二坊・裏宮御跡)
 24. 洲浜に掘入られた景石 (同上)
 25. 景と北・西岸の洲浜 (同上)
 26. 景から人形が出土 (同上)



↑ 越州窯青磁椀 (左京六条一坊)
 越州窯青磁では、最大径の碗。体土はきめ細かく、釉はオリブグリーンに発色する。『源氏物語』にも登場する「緑色」を思わせる良質な製品。

↓ 跡絵硯 (高麗院跡)

硯面以外は黒漆を塗り、側面は金粉を蒔いた平麗地に線で波文を描いて研ぎ出している。素地は、須恵器襖を転用。



↑ 礎石 (高麗院跡)
 大阪近郊から運ばれた海辺の和泉砂岩で、風による侵食を受け、無数の穴があけられている。